

# 『未来へつなぐ税の力』

足立区立湊江中学校 三年四組 庄司 美緒

二〇一一年三月十一日午後二時四十六分、誰もが忘れることは出来ない東日本大震災が日本を襲った。私は当時二才で、うっすらとしか記憶にないが毎日の余震と計画停電で部屋が真っ暗の中過ごすことが度々あり、両親に抱きついていていたことを思い出す。

祖父母の家が宮城県の多賀城市にあり、震災で大きな被害を受けた地域だった。震災から一年経った頃、私は多賀城へ帰省した。その時目に映った景色は想像を絶するものだった。いつも通っていた道路は地面に大きなひびが入り、木はなぎ倒され、信号機も機能していないものも沢山あった。幼い頃の私も、この先この町はどうなってしまうのだろう、家がなくなった人たちはどうしていくのだろうか、食べ物はどうするのだろうかと考えた。

あれから十二年がたち、私は中学校の「税についての作文」をきっかけに税について調べてみようと思った。あの時、倒壊してしまった家屋や道路などはどのように修復されたのかとふと気になったからだ。東日本大震災の直後、救助活動や避難所の設置、炊き出しなどの食料、飲料水の供給はすべて税金でまかなわれていたことが分かった。その時、目にとまったのが「復興特別税」だった。そこで「復興特別税」がどんな税金なのか、どのような予算の使い方をするのか気になり調べてみることにした。

図書館やインターネットで調べてみると、東日本大震災からの

復興施策に必要な財源を確保するために課されることになった税金だった。復興特別税には種類があり、財源としては所得税、住民税、法人税に上乗せするという形で集められていた。例えば、復興特別所得税は、二〇十三年一月一日から二十五年間、所得税額の二・一パーセントを納める。そうして集められた税金は、住宅や防潮堤、道路などの整備費用やがれきの処理、公共施設の復旧などに使われている。私は今、東京で暮らしているけれど、祖父母の家や被災された人のことを考えると少しでも役に立つことは出来ないだろうか、と考えた時、今調べている復興特別税は国民の支援をしたいという思いが形になったものだと思う。

しかし、詳しく調べていくと少し驚くことがあった。復興のために使われる予算「復興予算」について、被災地の復興に直接関係していない事業に税金が使われていたのだ。例えば、観光PR用のマスコットキャラクターの人件費や備品代だ。もし必要な事業でないのだとしたらどのような経緯で何の為に使用されていることになったのか一人の国民として関心を持っていくべきだと感じた。

震災から十二年経過したが今でも多くの人が仮設住宅などで生活をしている。被災された人が一日でも早く日常を取り戻す為にも私たち一人一人が税の在り方について興味を持ち続けることが大切だ。そして将来は、日本の未来へつなぐ納税者に私はなりたい。